

こんなときは兵庫県弁護士会へ

兵庫県弁護士会では、様々な窓口を設け、市民の皆様のご要望にお応えしています。

犯罪被害にあったとき



犯罪被害者やその遺族の方への無料相談

犯罪被害者支援センター
078-341-8227

訴えられたとき



裁判等の当事者対象の無料相談

民事・家事事件当番弁護士
078-341-5000

借金・生活



借金による多重債務についての相談

神戸 078-341-1717
西播磨 079-286-8222
阪神・伊丹・川西・宝塚
06-4869-7613

高齢者・障がい者相談



高齢者・障がい者についての専門法律相談。来所・出張・電話相談可

高齢者・障害者総合支援センター
078-341-0550

逮捕されたとき (当番弁護士制度のご案内)



逮捕された方への当番弁護士派遣のお申込み

神戸 078-341-2940
阪神 06-6412-8030
明石 078-360-6056
播磨 079-224-7115
但馬 078-360-8301

法律相談したい



県下13箇所の相談所での弁護士による一般相談窓口。どこへ相談して良いか分からないという方はまずはこちらへ

総合法律センター

神戸 078-341-1717
西播磨 079-286-8222
阪神・伊丹・川西・宝塚
06-4869-7613
北播磨・山崎・南たじま・明石・淡路・丹波
078-351-1233

住宅でもめているとき



住宅紛争審査会での住宅紛争処理手続きについて

問合せ 078-367-3616
申込み 0570-016-100

仲裁・裁判外の解決 (ADR)



紛争解決センターによる和解あっせん制度のご紹介

問合せ
078-341-8227

遺言・相続



遺言や相続に関する無料電話相談窓口

遺言・相続センター
078-382-4115

中小企業相談



売掛金の回収や事業承継など中小企業にまつわる無料相談窓口

ひまわり中小企業センター
0570-001-240

消費者被害にあったとき



商品先物、証券取引、マルチ商法、インターネット取引、欠陥商品、欠陥住宅など、消費者被害に関する専門相談窓口

消費者被害救済センター
078-341-1810

労働相談



解雇や雇止め、賃金等の未払いなどでお困りの方のための労働相談窓口

総合法律センター又は法テラス兵庫
050-3383-5440

子どもに関する相談



いじめ、体罰、虐待、不登校、校則、少年事件などについての相談(無料)

子どもの悩みごと相談
078-341-8227

DV相談



DVとは何かのご説明や、支援の法制度、相談窓口などのご案内

総合法律センター又は法テラス
DV等被害者法律相談援助制度の申込
0570-079-714

空き家対策支援センター



空き家に関する法律問題に対応できる弁護士の紹介、自治体等での空き家問題セミナーへの弁護士派遣などを行います

空き家対策支援センター
078-341-5110

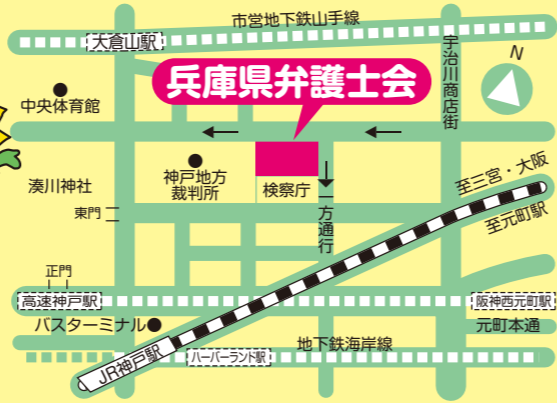
どの窓口かわからない場合でも、まずは、兵庫県弁護士会までお電話ください。

兵庫県弁護士会館

〒650-0016 神戸市中央区橋通1-4-3

TEL:078-341-7061

兵庫県弁護士会
イメージキャラクター
ヒマリオン
Since2001



反対する声の中に飛び込んで、自分の言葉で向き合っていく。
信頼関係さえ構築できれば、意見の相違は乗り越えられる。

川西市長 越田謙治郎さんと会長の対談



の現場では法的問題が増えていることから、S先生に教育委員にご就任いただいたところです。

■弁護士への期待

津久井 弁護士への注文があればお話しただけませんか。

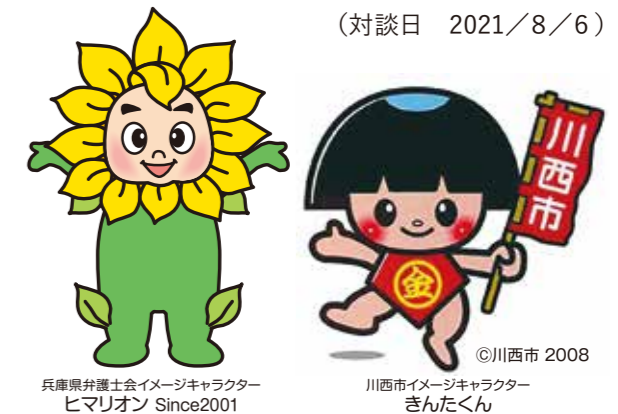
越田 敷居の高さがあるのは事実で、30分の相談時間で自分の困りごとを要領よく話せる人は少ないです。本当に困っている人は弁護士さんまで辿り着かないかも知れません。お金がかかると思っている人も多いので、市民と弁護士さんをつなぐ市役所の相談窓口の役割が重要です。

津久井 弁護士会の活動についてはいかがですか。

越田 モノが言いにくい今の世の中で、法を武器に正論を言い続ける弁護士会の存在は貴重です。権力は間違える可能性がありますから。川西市には子どもの人権オンブズパーソンがありますが、中立的ではダメで、子どもの立場を代弁してこそ意味があります。僕らが解決すべき不条理に気付いていないこともあります。弁護士会が、市民の側に立って制度の不条理を突いていただくことは、行政にとっては耳が痛いですが、世の中の不条理を解決していく上で大事なことです。

津久井 私たちも頑張ります。今日はありがとうございました。

(対談日 2021/8/6)



兵庫県弁護士会イメージキャラクター
ヒマリオン Since2001

©川西市 2008
川西市イメージキャラクター
きんたたくん



を差配する現場職員と、積み上げてきたシステムを守り切るトップの共同作業です。

これまで数々のテーマで意見を二分する問題がありましたが、反対する声の中に飛び込んで、自分の言葉で語り、異なる意見と向き合っていく。民主主義で大事なことはお互いの信頼関係です。たとえ意見が相違しても、お互いの信頼さえ構築できれば乗り越えられると信じ、それを実践してきました。

■市政における職員弁護士の役割

津久井 川西市は今年度から弁護士職員を採用されました。存在感はいかがでしょう。

越田 めちゃくちゃ助かっています。K先生のお人柄もあって職員の信頼を得ています。問題が起きてから顧問弁護士に相談するのと違い、問題が起きないようにチェックできるのが大きいです。行政の仕事は法律に従って遂行するわけですから、法的チェックをする意識や習慣を身に付けることが大事で、一人ひとりの職員がトレーニングを積む上で職員弁護士の存在は大きいです。

津久井 一人の弁護士職員が、行政の内部を変えていく役割があるのですね。

越田 行政は課題を解決する仕組みですからニーズはたくさんあります。ほかにも内部統制とか対外的な契約の点検とか、一人では足りないぐらいです。今回の採用は、市としての大きな成功体験です。総務だけではありません。学校



副会長のご挨拶

兵庫県弁護士会 副会長 **立花 隆介**

異なる意見であってもお互いへの信頼関係を基礎に対立を乗り越えていくという越田市長のご意見には強く共感します。

「対立」から生まれるのは「さらなる対立」でしかありません。多様な意見を調和させ、安定的な組織、さらには社会を形成するためには、「対話」によりお互いをよく知り、お互いへの「信頼」を築いていくことが重要だと感じます。弁護士会も、関係各機関等との「対話」と「信頼」によってよりよい社会の形成に尽くしていかなければならないと感じています。

越田謙治郎さんは、当時全国最年少の25歳1か月で川西市議に当選し、兵庫県議を経て2018年10月から川西市長となり、多くの支持を集める人気市長である。議員時代にマニフェスト大賞を受賞し、市長としても優秀マニフェスト推進賞(首長部門)を受賞するなど政策実践者として全国的にも知られる。現場主義を貫き、コロナ禍においてもSNSを通じて一人ひとりの市民との対話を欠かさない。本年度、川西市は職員弁護士を採用したところで、弁護士に寄せる期待などをお聞きました。



■全て自分に責任があるからこそノンストレス

津久井 越田市長になって間もなく3年目が終わりますが、川西市の雰囲気がかなり変わったように見えます。市役所という大きな組織のリーダーとして、何か心構えがあれば聞かせて下さい。

越田 トップの関わり方として、現場に丸投げして最後にハンコだけ押すというやり方もあるでしょうけど、僕はそれをしません。はじめに職員たちと何度も議論して、トータル大きな方向性と、市長の考えるNGゾーンをしっかりと共有します。そこさえ詰めたら、あとは現場を信頼して任せられます。人間のやることですから必ずミスは生じますが、そのミスは職員の責任じゃなくて、そのミスを生んだシステムに問題があるわけですから、システムを作ったトップである市長の責任なんです。それがお互いに分かって信頼関係ができれば、グッと良い仕事ができます。

津久井 法的には趣旨・目的が明確で、そこが一致できたら、手段の選択は現場に任せて良いということですね。よくわかります。でもそのためには十分なコミュニケーションが必要ですね。

越田 コミュニケーションは意識しています。会議を終えたら、職員たちの部署に出向いて2時間ぐらい話し込んだりします。きっと迷惑でしょうけど(笑)。僕は現場の声を聞きたいし、彼らもトップが何を考えているか理解しておきたいでしょうから。文書や通訳を介さずに、直接の市長の生の声を聞いた方が現場も動きやすいと思うのです。

津久井 コロナの対策やワクチン接種などで、現場は疲弊しているではありませんか。

越田 現場は罵倒されても言い返すこともできずストレスフルだと思います。うまく行っているときは市長はいりません。間違いが起きて謝らなければならないときこそ市長が必要で、それこそがトップの責任だと思っています。だから

こそ僕は今ノンストレスなんです。議員時代の方が、執行権の無い立場で、ストレスを感じていました。トップに全ての責任があるからこそ、自ら対応し、自ら謝罪もし、改善にも自ら関わる。分かりやすくスッキリして、やり甲斐も感じます。

■不条理に直接向き合って解決にチャレンジする

津久井 「責任」を仕事にする弁護士としては、市長のお話は逆転の発想ですね。目からウロコが落ちました。そもそも、どうして政治家を志したのですか。

越田 高校生のころ、祖母が寝たきりになって「何も出来ずにこのままおばあちゃんは天井を見ながら死んでいくのか」と思うと、不十分な制度など世の中の不条理に憤りを感じました。大学時代、高齢者福祉を書いた山井和則さんの本に出会い、山井さんに直接お話を聞く機会を得て、数々の社会の理不尽を解決する仕事として政治家を考えるようになりました。

津久井 不条理に対峙して世の中を変える仕事として、司法の世界は考えませんでしたか。

越田 もし、そのとき出会った人が弁護士さんだったら、そうだったかもしれません(笑)。一時、新聞記者になろうと考えたこともあるのですが、不条理を外野席から論評する生き方ではなく、目の前に不条理や不公平があるなら、それに直接向き合って解決に向けてチャレンジするのが一番早いと思ったのです。それが私の原点です。

津久井 火中の栗を拾いに行く人生選択ですね(笑)。コロナ対策もその実践の一つでしょうか。

越田 そうですね。私の小学生の息子も自然学校が中止になり、母校の履正社も夏連覇のチャンスを失うなど、我が事として、大きな不条理だと感じています。ワクチン対策は効率性と安全性の両立にこだわってシステムを作りました。責める声も数多く寄せられましたが、実行する医師と、現場